

2024年10月12日 ESDユネスコ世界会議+10 Years フォーラム (SDGs AICHI EXPO 2024)

ESDユネスコ世界会議の意味

日本ESD学会副会長 岩本 渉

自己紹介

- 1年前：アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）所長
- 10年前：文部科学省 参与（ESDユネスコ世界会議開催）
- 20年前：ユネスコ本部勤務

本日の話題

- I 持続可能な開発のための教育（ESD）とは？
- II 国連「ESDの10年」（2005年～2014年）とは？
- III ESDユネスコ世界会議（2014年）の意味

I 持続可能な開発のための教育（ESD）とは？

Sustainable Development（持続可能な開発）とは…

「将来の世代が自らのニーズを充足する能力を損なうことなく、
今日の世代のニーズを満たすこと」

※ 国連「環境と開発に関する世界委員会（ブルントラント委員会）」
報告書『我ら共通の未来（Our Common Future）』（1987年）
における定義

1987

2005~

持続可能な開発のための教育（**ESD**）とは…
「持続可能な社会の担い手を育む教育」

2016~2030

SDGs（持続可能な
開発目標）

ESDの基本的な考え方とは？

ESD=持続可能な社会づくりの「担い手」となるよう個々人を育成する教育

特に、

- ◆ 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと。
- ◆ 個々人が他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性の中で生きており、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと。



ESDで育む能力とは？

課題発見のための「6つの視点」

持続可能な社会づくりを構成する視点

1. 多様性 (いろいろある)
2. 相互性 (かかわりあってる)
3. 有限性 (限りがある)
4. 公平性 (一人一人大切に)
5. 連携性 (力を合わせて)
6. 責任性 (責任をもって)



課題解決に必要な「7つの能力・態度」

持続可能な社会づくりのための課題解決に必要な能力・態度

1. 批判的に考える力
2. 未来像を予測して計画を立てる力
3. 多面的・総合的に考える力
4. コミュニケーションを行う力
5. 他者と協力する力
6. つながりを尊重する態度
7. 進んで参加する態度

Ⅱ 国連「ESDの10年」とは？

国連「持続可能な開発のための教育（ESD）」の10年

(United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

- 2002年 ヨハネスブルクサミットで我が国が提案
- 2002年 国連決議（第57回総会）
 - ・ 2005～2014年の10年を「ESDの10年」とする
 - ・ ユネスコを「ESDの10年」の国連における主導機関に指名
- 2005年 「ESDの10年」国際実施計画をユネスコにて策定
全体目標：持続可能な開発の原則、価値観、実践を、教育と学習のあらゆる側面に組み込んでいくこと
- 2009年 ESD世界会議（ボン）
 - ・ ボン宣言の採択
- 2014年 持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議（愛知県名古屋市／岡山市）



2002年 ヨハネスブルクサミットの小泉首相(当時)

出典：外務省ウェブサイト

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/wssd/koizumi_speech.html

国内では、2005年12月
「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議を内閣に設置

学校教育における変化

文部科学省の動き

- 学習指導要領の改訂（2008年3月公示）
- 新学習指導要領（2008年3月、2009年3月）

小学校学習指導要領の総則や理科、社会、
中学校学習指導要領の理科、公民、地理、
高校学習指導要領の地理歴史、公民などに
持続可能な社会の構築の観点が含まれている



教育行政の対応

教育振興基本計画におけるESD（2008年閣議決定）

基本的な考え方

- 「縦」の接続：**一貫した理念**に基づく生涯学習社会の実現
- **ESD**と「**国連ESDの10年**」
- 地球的規模での**持続可能な社会の構築**は、我が国の教育の在り方にとっても重要な理念の一つ

施策

- (ESD)の重要性について、広く**啓発活動**を行う
- **関係府省の連携**を強化し、このような教育を担う人材の育成や教育プログラムの作成・普及
- 特に、ESDを主導するユネスコの世界的な学校ネットワークである**ユネスコ・スクール**加盟校の増加を目指し支援

教育振興基本計画(平成20年7月1日閣議決定)

第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策

(1)基本的考え方

②「縦」の接続：一貫した理念に基づく生涯学習社会の実現
また、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)においては、地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となるよう一人一人を育成する教育(「持続発展教育/ Education for Sustainable Development(ESD)」)が提唱されており、2005年から2014年までの10年間は、「国連持続発展教育の10年」と位置付けられている。地球的規模での持続可能な社会の構築は、我が国の教育の在り方にとっても重要な理念の一つである。

(3)基本的方向ごとの施策

④いつでもどこでも学べる環境をつくる

【施策】

◇ 持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進：一人一人が地球上の資源・エネルギーの有限性や環境破壊、貧困問題等を自らの問題として認識し、将来にわたって安心して生活できる持続可能な社会の実現に向けて取り組むための教育(ESD)の重要性について、広く啓発活動を行うとともに、関係府省の連携を強化し、このような教育を担う人材の育成や教育プログラムの作成・普及に取り組む。特に、ESDを主導するユネスコの世界的な学校ネットワークであるユネスコ・スクール加盟校の増加を目指し、支援する。

教育行政の対応

第2期教育振興基本計画におけるESD（2013年閣議決定）

Ⅲ 四つの基本的方向性

（1）社会を生き抜く力の養成

○持続可能な社会の構築という見地からは、「**関わり**」「**つながり**」を尊重できる個人を育成する「**持続可能な開発のための教育（ESD）**」の推進が求められており、これは「**キー・コンピテンシー**」の養成にもつながるもの

【基本的考え方】

○現代的、社会的な課題に対して地球的な視野で考え、自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、**持続可能な社会づくりの担い手**となるよう一人一人を育成する教育（**持続可能な開発のための教育：ESD**）を推進

【主な取組】

11-1 現代的・社会的な課題等に対応した学習の推進
ユネスコスクールの質量両面における充実等を通じ地球規模での**持続可能な社会の構築に向けた教育（持続可能な開発のための教育：ESD）**を推進

第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)

第1部我が国における今後の教育の全体像

Ⅲ 四つの基本的方向性

(1)社会を生き抜く力の養成～多様で変化の激しい社会での個人の自立と協働～

(今後の学習の在り方)

○持続可能な社会の構築という見地からは、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育成する「**持続可能な開発のための教育（ESD）**」の推進が求められており、これは「**キー・コンピテンシー**」の養成にもつながるものである。

第2部今後5年間に実施すべき教育上の方策

I 四つの基本的方向性に基づく方策

1. 社会を生き抜く力の養成

(4)生涯の各段階を通じて推進する取組

基本施策11 現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進

【基本的考え方】

○現代的、社会的な課題に対して地球的な視野で考え、自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、**持続可能な社会づくりの担い手**となるよう一人一人を育成する教育（**持続可能な開発のための教育：ESD**）を推進する。

【主な取組】

11-1 現代的・社会的な課題等に対応した学習の推進

ユネスコスクールの質量両面における充実等を通じ地球規模での**持続可能な社会の構築に向けた教育（持続可能な開発のための教育：ESD）**を推進する。

出典：文部科学省

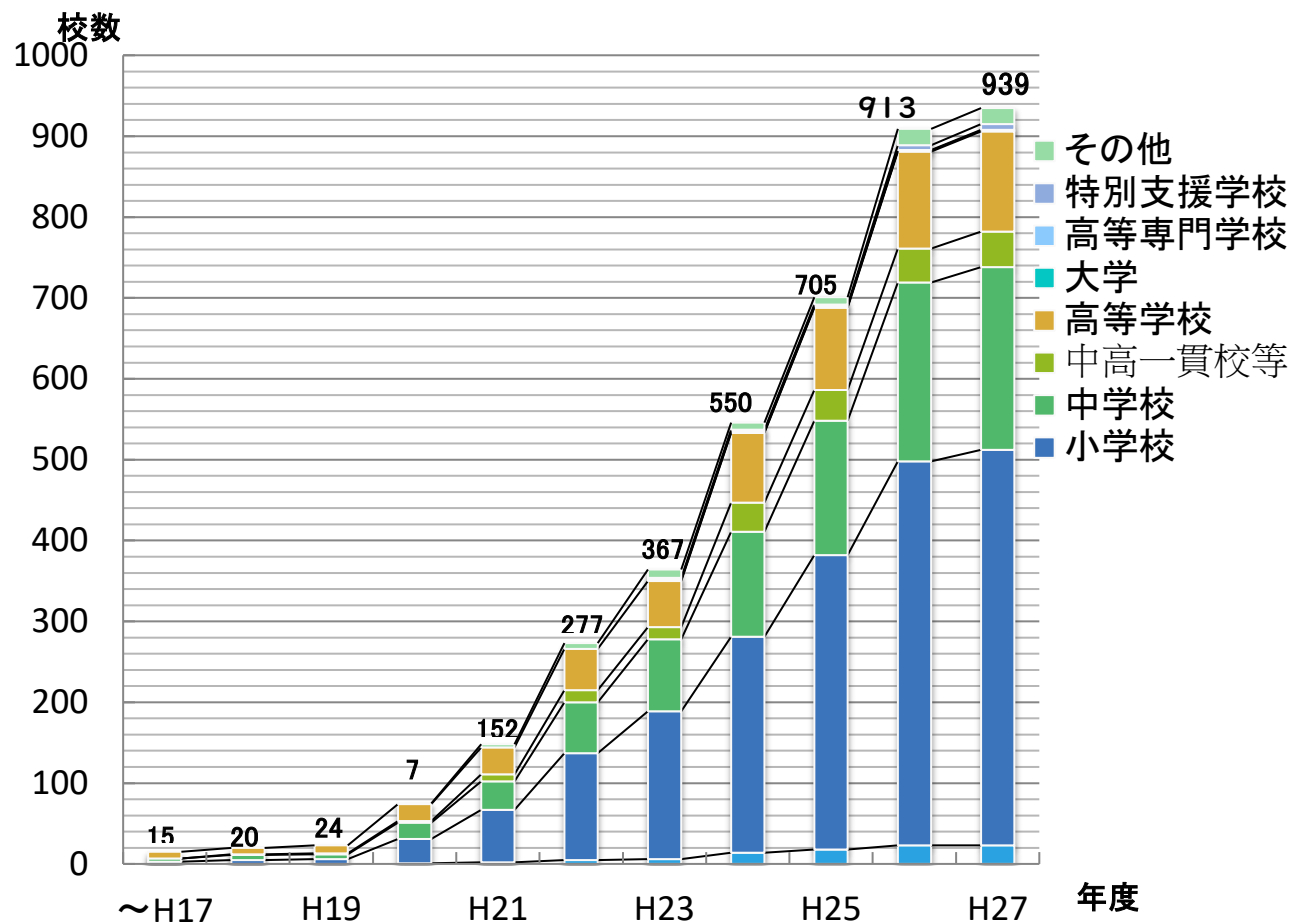
ユネスコスクールを拠点とするESDの推進力強化

ユネスコスクールとは？

UNESCO Associated Schools Project Network

- ユネスコ憲章に示された**ユネスコの理念**を、学校に広く定着させて「児童生徒の心の中に平和のとりでを築く」ことを目指す学校の国際ネットワーク
- 文部科学省は、ユネスコスクールを**持続可能な開発のための教育 (ESD) の推進拠点**として位置づけ

ユネスコスクール数の推移



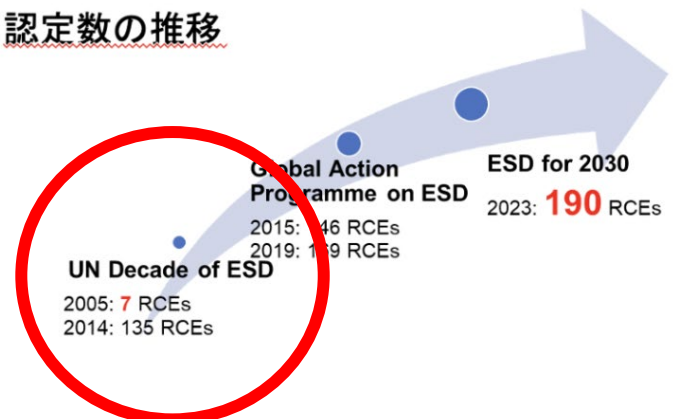
ESDの地域活動と国際的ローカル・ネットワークの発展

ESD地域拠点 (RCE) の取組

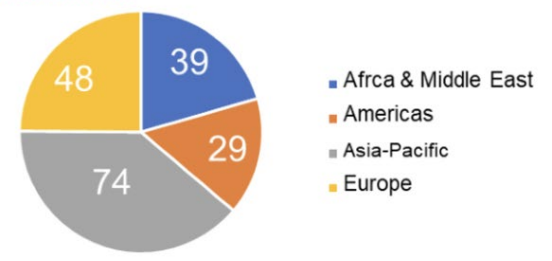
- 国連大学 (UNU) が提唱
- フォーマル教育とインフォーマル/ノンフォーマル教育の連携
- 多様なステークホルダー連携 (大学、学校、行政、企業、NGOなど)
- 2005年に設立 (世界7地域からスタート)
- 「ESDの10年」の期間中に135拠点に増加

ESDに関する地域拠点 (RCEs)

認定数の推移



大陸別の認定数



出典: 国連大学サステナビリティ高等研究所

Ⅲ ESDユネスコ世界会議の意味

ESDユネスコ世界会議とは？

1. 参加国・閣僚者数等

1) 愛知・名古屋 (2014年11月10日(月)～12日(水))

○正式参加者: 150か国・地域 1,000名以上

○閣僚級: 76名(大臣:52名、その他:24名)

○ワークショップ34、サイドイベント25、併催イベント21件

2) 岡山 (2014年11月4日(火)～8日(土))

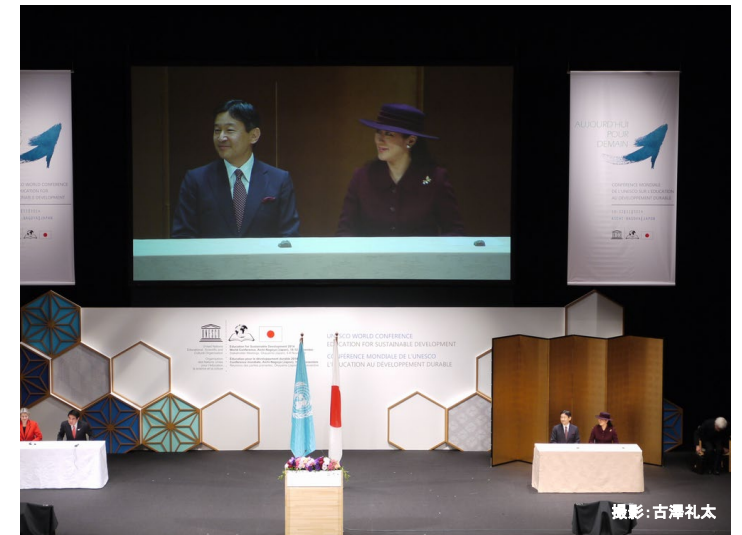
○ステークホルダー会合参加者: 約1,800名

(ユネスコスクール世界会議、グローバルRCE会議、ユース・コンファレンス等)

出典: 文部科学省



開会全体会合のボコバ事務局長(当時)



皇太子同妃両殿下のご臨席

ESDユネスコ世界会議の議論 (全体会合・公式ワークショップ)

会議の概要

- 開会 (国連ESDの10年の振り返りとその後に向けて)
- ハイレベル円卓会議
- 全体会合
- ワークショップ
- 閉会 (会議の結論、あいち・なごや宣言採択、GAP発表、子ども会議パフォーマンス)



全体会合(開会・閉会)とハイレベル会合

世界会議のテーマ(公式ワークショップのテーマ)

- クラスタ I: 「行動の10年」を称えて
- クラスタ II: 万人にとってよりよい未来を築くための教育の新たな方向性
- クラスタ III: 持続可能な開発に向けた行動促進
- クラスタ IV: 2014年より後のESDアジェンダの設定



マ、ESDにおける現地イニシアティブ:持続可能な将来に向けた行動推進
コーディネーター:ドイツユネスコ国内委員会、ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会、RCE 中部(中部大学)

概要:

ドイツと日本の地域での取組の発表があった後、フィッシュボウル形式での討議が行われました。日本の東海・中部地域の取組から、多様なステークホルダーの参加による、河川の流域圏を活動対象地域としたESDの推進モデルが紹介され、生命地域(Bioregion)単位でESD活動を行うことが重要であるとの考えが示されました。ドイツのハンブルグ地方自治体の取組から、持続可能な開発(SD)は政策的でなければならない、市長は教育関係者だけではなく一般市民に語る必要があるとの教訓が発表されました。ESDはそれぞれの地域によって違う、主要なステークホルダーのアイデアを明確にしていく必要がある、評価が必要であるとの発言があり、最後にネットワーク間の連携とその質が大事であることがまとめられました。



ワークショップ
(クラスタ4、ローカルコミュニティ)

出典:文部科学省

ESDユネスコ世界会議の議論

(全体会合・公式ワークショップ)

ワークショップ・クラスターⅢの個別テーマ

- | | |
|----------------|----------------------|
| ■ 水と公衆衛生 | ➤ SDGs 6「水」 |
| ■ 海洋 | ➤ SDGs 14「海の自然」 |
| ■ エネルギー | ➤ SDGs 7「エネルギー」 |
| ■ 健康・保健 | ➤ SDGs 3「健康・福祉」 |
| ■ 農業と食料安全保障 | ➤ SDGs 2「飢餓」(食農) |
| ■ 生物多様性 | ➤ SDGs 15「陸の自然」 |
| ■ 気候変動 | ➤ SDGs 13「気候変動」 |
| ■ 災害危機管理 | ➤ SDGs 11「まちづくり」(防災) |
| ■ 持続可能な生産と消費 | ➤ SDGs 12「責任ある生産・消費」 |
| ■ グリーン経済 | ➤ SDGs 8「経済発展」 |
| ■ 持続可能な都市と人間居住 | ➤ SDGs 11「まちづくり」 |

※これらすべてに、
人権・平和・公正・
文化の多様性、の視
点を考慮すること。

ESDユネスコ世界会議への多様な主体の参加

(サイドイベント・併催イベント)

サイドイベント (ユネスコ主催: 日本からの出展例)

- 持続可能な開発 (SD) のための教育とジェンダーの格差の是正—ポスト2015教育アジェンダに向けて【外務省, 文部科学省】
- 日本におけるESDの成果と今後【環境省】
- ESDを成功させる環境整備: アジア及びアフリカにおける学校ベースの経営 (SBM) の実践【国際協力機構 (JICA)】

併催イベント (文科省主催および支援実行委員会主催事業)

- ESDの地域連携—ポスト「ESDの10年」のESDに関する地域拠点 (RCE) の取組【RCE日本国内連携 (幹事機関: 中部ESD拠点協議会)】
- ESDの開催地提案「中部モデル」の発信【中部ESD拠点協議会】 (ESD交流セミナー)



ESDユネスコ世界会議の成果

1) 採択された各種宣言

①「あいち・なごや宣言」

- ②「ESD推進のためのユネスコスクール宣言」
- ③「ユース・ステートメント」
- ④「ユネスコスクール世界大会Student(高校生)フォーラム共同宣言」

2) 「国連ESDの10年」の後継プログラムである「グローバル・アクション・プログラム」(GAP) 開始の正式発表

3) 「ユネスコ／日本ESD賞」創設の正式発表

GAPの具体的な実施を促進するため、活発にESD活動に取り組む個人又は団体を表彰

出典:文部科学省



あいち・なごや宣言の採択



世界会議の閉幕(子ども会議)

1) 「あいち・なごや宣言」とは？

1 ESDのこれまでの評価

1. 国連ESDの10年に多くの実質的な優れた取組が出たことを祝す。
2. ユネスコ／日本ESD賞の創設を評価する。

2 今後に向けた呼びかけ

【全てのステークホルダーへ】

- ・批判的思考、分析的問題解決、不確実なことに直面した際の決断、国際的な課題がつながっていることへの理解等に必要な知識、スキル、態度等を発達させるESDの可能性を重視
- ・ESDは、先進国と発展途上国の両方が貧困撲滅、不平等の縮小、環境保護、経済成長のための努力の強化に取り組む機会であることを強調
- ・ESDの実践は、持続可能な開発への文化の貢献、平和の尊重、非暴力、文化多様性、地域と伝統的な知識、先住民の英知と実践などに考慮すべき

【ユネスコ加盟国政府へ】

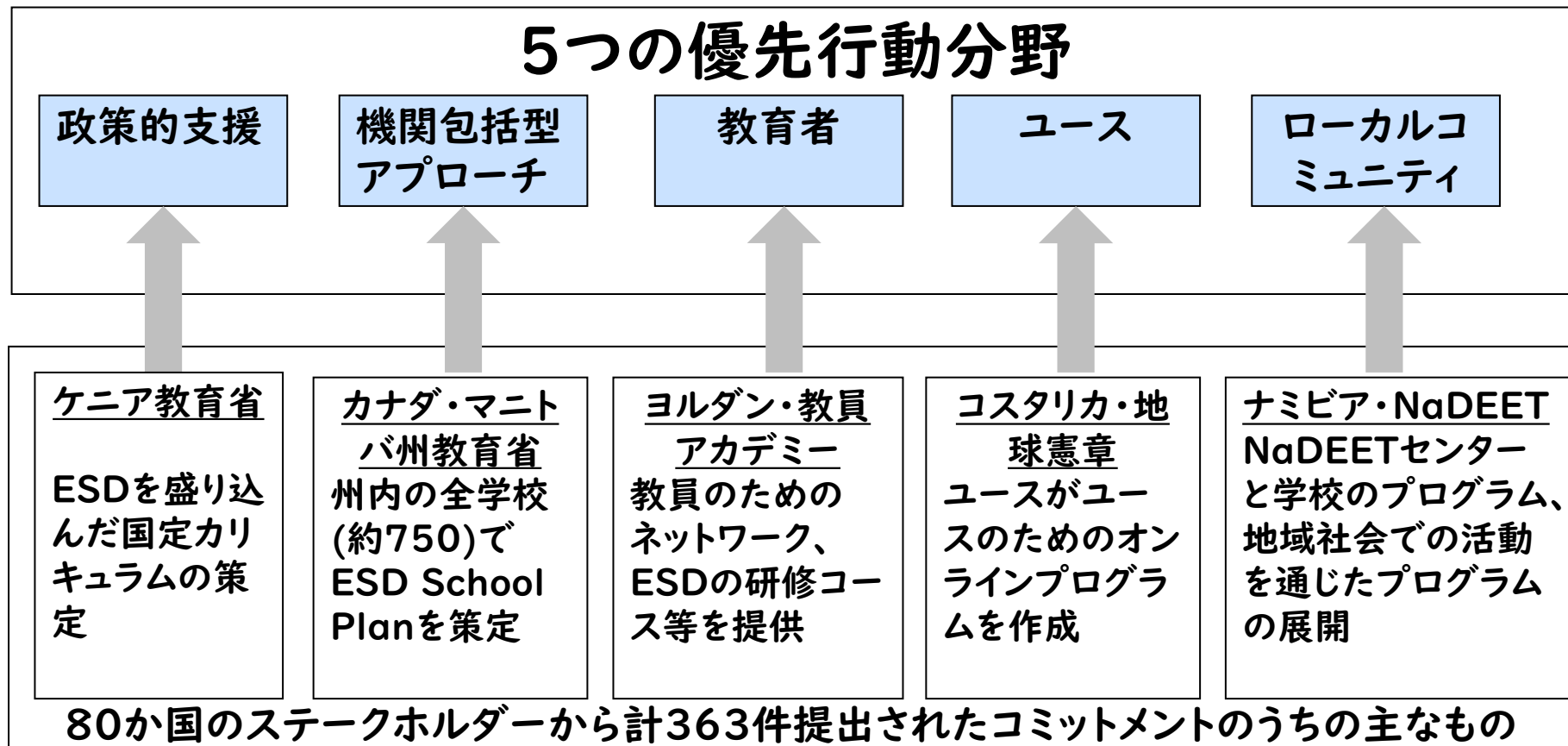
- ・教育政策とカリキュラムのESDのゴール達成度を評価し、教育、訓練、職能開発へESDを導入
- ・GAPの五つの優先行動分野に沿った政策を行動に移すため、実質的資源を配分、集結
- ・ユネスコ世界会議の成果をポスト2015年アジェンダへ反映

【ユネスコ事務局長へ】

- ・ESDのグローバルリーダーシップを提供
- ・ユネスコスクール等のネットワークを活用し、ESD実施のための新たなモメンタムを構築
- ・ESDの資金を含む適切な方策を保証する重要性を支援

2) ESDの「グローバル・アクション・プログラム (GAP)」とは？

- ・「国連ESDの10年」の後継プログラムとして位置付け（2015～2019年）
- ・下記5点を優先分野としてESDの取組を推進
- ・各ステークホルダーからのコミットメントを収集



3) ESD活動のエンカレッジ（顕彰）

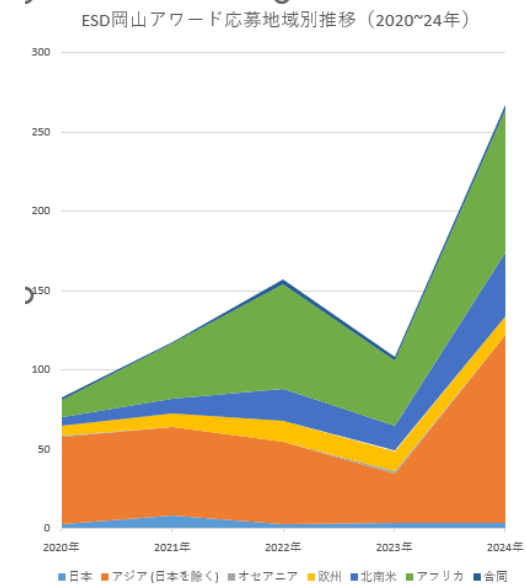
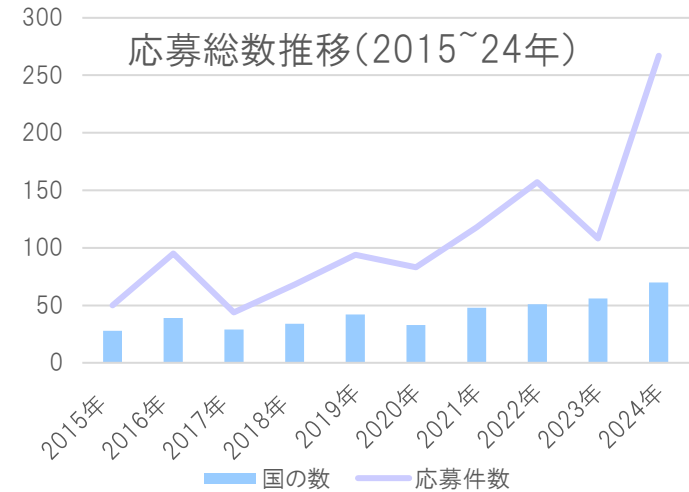
「ユネスコ／日本ESD賞」とは？

- ・ GAPの5つの優先行動分野のうち、一つ以上の分野で活発に活動している主体が対象
- ・ 個人又は団体を表彰
- ・ 1件当たり5万米ドル、毎年3件を表彰
- ・ 現在までに21件を表彰

「ESD岡山アワード」の創設と推移

- ・ 国内外の優秀なESD活動を表彰
- ・ 2015年に開始
- ・ 1件当たり40万円、毎年2件表彰

ESD岡山アワード



(出典)岡山ESDアワードについては岡山市SDGs・ESD推進課

ESDの現在地と今後の課題 (問題提起)

2014年: ESDユネスコ世界会議 (愛知開催)



2002年

日本政府からの提案



2005～2014年

国連「ESDの10年」



2015～2019年

ユネスコ「GAP」



2020～2030年

ユネスコ「ESD for 2030」



今後の課題

1. 地域振興に貢献するESDとは？

2. SDGsの実現のためにすべきことは？ (ESD for 2030)

3. マルチステークホルダーのネットワークを強化するためには？

ご清聴ありがとうございます